



ICT 海外ボランティア会会報 第 108 号

2023 年 5 月 30 日（火）

URL: <https://ictov.jimdo.com>

EML: info.ictov@network.email.ne.jp

目次

◆ 特別寄稿

[男脳と女脳、その違いを踏まえた賢い生き方](#)

[当会特別顧問 宮村 智](#)

◆ 特別寄稿

[岩槻日記\(23\)](#)

[当会特別顧問 石井 孝](#)

◆ JICA の動き

[JICA 海外協力隊 2023 年春募集](#)

[事務局](#)

◆ 国際交流基金の動き

[日本語パートナーズ派遣事業の募集](#)

[事務局](#)

◆ 海外グラフィティ

[牡蠣師の世界観](#)

[日本ベンダーネット社長 エッセイスト 田上 智](#)

◆ 海外便り

[やどかり族の中国俳柳紀行序章\(3\)](#)

[元 JICA シニア海外ボランティア 北垣 勝之](#)

◆ メッセージリレー(1)

◆ 第 18 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

[事務局](#)

男脳と女脳、その違いを踏まえた賢い生き方

当会特別顧問 宮村 智

はじめに)

全くの門外漢ではあるが、会報 100 号に続いて、脳の話をしたい。今回は「男脳(おとこのう)と女脳(おんなのう)の違いを比べた上で、その違いを踏まえた人生の賢い生き方を考えてみよう」という実践的な話である。

男女の脳の違いというが、私が調べたところでは、脳の構造や機能は、MRI を用いてミリ単位で脳を測定しても、男女間の違いは殆どないようである。他方で、脳の使い方やホルモンの影響は男女間で差異があるので、その差異によってもたらされる男脳と女脳の働きの違いを紹介する話となる。

脳の使い方が違うために、脳の働きが違ってくる例として理解しやすいのは、男女による左右の脳の使い方である。周知のとおり、左脳は思考や論理を司る人間的な脳とされ、文字や言語などを認識する。男は左脳優位に脳を使ってきたため、歴史に名を残している数学者・物理学者や将棋・囲碁の一流棋士は圧倒的に男が多い。これに対して、右脳は動物的な脳とされ、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚などの五感や直感、感情などを認識する。女は右脳優位に脳を使うため、「女の勘」と言われるように直感が鋭く、家庭では家族の絆を大切に、職場では人間関係を円滑するのが得意である。男女の脳の働きの違いは、これ以外にも沢山あり、1. で詳しく説明するが、基本的には男が左脳優位、女が右脳優位の使い方をしている影響が大きいと思われる。



1. 男脳と女脳の特徴と違い

まず、文末の参考文献を参照しつつ、男女の脳の特徴、得手・不得手、傾向などを、できるだけ男脳と女脳を対比しながら取り纏めてみた。

1)男脳は、空間認知能力が高く、空間を立体的に理解し、地図を正確に早く理解できる。これは、その昔に狩りに出かけて獲物を獲ってくる役割を担っていた男が長年磨きをかけてきた能力が受け継がれているためとされる。また、そうした遺伝的要因に加え、男性ホルモンであるテストステロンの働きもあるとされる。

他方、女脳は一般に空間認知能力が劣っており、英国での調査によると、ぴったり縦列駐車できた男は 82% だったが、女は 22% しかいなかったという結果が残っている。統計数値は見付けられなかったが、方向音痴も女の方が多いいわれている。ちなみに、20 年ほど前に世界的なベストセラーとなった本の表題に、「地図が読めない女」という表現が使われた。これは正に、女の空間認知能力が劣っていることを揶揄する表現である。

2)男脳は、論理を重視し、目的志向が強く、結果や解決を効率的に追求する。これは左脳優位の特徴だが、その昔、狩猟者であった男が「獲物を確実に仕留める」という目的を果たすべく懸命に脳を使った名残という遺伝的要因もあるといわれる。

他方、女脳は右脳優位なので、感情や共感、周囲の人々との人間関係や協調性を大事にする「きずな脳」であるといわれる。昔、女はいつ猛獣などの外敵から襲われるかもしれないため、常に周囲と頻繁に会話をしてお互いの存在を確認する必要があった。ま

た、いつも女同士で助け合いながら、日常生活を送り、子育てをしているために、コミュニティ内での協調も非常に重要であったが、そうした名残でもあるといわれる。

さらに、女脳には、①勘が鋭く、相手の態度や雰囲気では何かを察することができる、②自分が体験したことをその時の感情と一緒に鮮明に記憶する、③自分の感情に共感を求め、相手の感情に共感を示したりする共感性が高い、などの特徴もある。

3)男脳は、「きずな脳」の女脳とは対照的に、一つの物や事に拘る傾向が強い「オタク脳」であるといわれる。例えば、買ったカメラの画素数など様々なスペックについて、友人と延々と議論することを好む。パソコンのプログラミングにのめり込むと寝食を忘れ、人間関係をおろそかにする嫌いがある。また、男脳は一つの事に集中すると、それを片付けてから次に進みたいと思うシングルタスクの脳でもある。他方、女脳はマルチタスクが得意で、例えば、掃除、洗濯、料理といった家事などを同時にサクサクこなすことができる。

4)話す能力は、女脳が男脳より高く、女は周囲との協調を図りながら、円滑なコミュニケーションを築くことが上手いといわれる。その理由は、女は男より左右の脳の連携がよい(注)ので、右脳で生まれる感覚や感情を左脳が司る言語としてアウトプットすることが得意なためといわれる。その上、2)で先述したように、過去の体験を感情と一緒に記憶しているので、過去の出来事を容易に持ち出すことができ、口喧嘩では、女が圧倒的に男より有利となる。(注)左右の脳を繋ぐ脳梁(のうりょう)が女の方が太いためとの説明もある。

5)会話については、男は情報交換か事実伝達という明確な目的があり、相手に内容をしっかり伝えようとする。他方、女の会話は話すこと自体が親密さの象徴だったり、単に共感を求めるだけだったりして、特に目的や脈絡がない場合が少なくない。

このため、職場の会議などでは男の発言が目立つのに対して、家庭での会話では、男は黙ったままで、女が一人で話し続けている状況がよく見られる。なお、強いストレスを感じた場合、男は喋るのを止めて、沈黙する。これに対して、女はひたすら喋り続ける傾向があるといわれる。

6)男は何か集中している時に話が聞こえなくなる。また、自分自身が話す時は明確な目的があるので、目的や脈絡が不明な話をされると、上の空状態に陥って、話がわからなくなり、聞こえなくなることもある。1)で引用した本の表題で、「話を聞かない男」という表現が「地図が読めない女」と並べて使われた所以である。

7)その他、①男は危険(リスクテイク)やチャレンジを好むが、女は安全が好き、②男は公正な競争を歓迎し、その結果を受入れ、順位をつけたがるが、女は人間関係のバランスを重視し、順位はつけずにフラットが好き、③男は秩序や決まりを重視するが、女は物事の整合性をあまり気にしない、④先述のとおり、結果重視の男に対して、女はプロセス重視の傾向がある、などの違いも指摘される。

上記で列挙した男女の脳の違いはあまりにも大き過ぎて、そもそも男と女がお互いを完全に理解し合うことは不可能ではないかと感じてしまう。現に、1990年代に世界的ベストセラーとなった「男は火星から、女は金星からやってきた」と題する本の著者である米国の作家兼人間関係カウンセラーのジョン・グレイ博士もそう述べている。でも、彼は男女の行動・思考パターンの違いを理解することで、男女間のトラブルを避け、敬

意と信頼、純粋な愛情の上に成り立つパートナーシップを築くことが可能だとも指摘している。

男と女は異星人ほどではないにしろ、別の国からやって来た外国人同士の如く違うとの見解もある。でも、大げさに言えば人類の存続のために、個人レベルで言えば幸せな一生を送るために、男と女はパートナーとして上手に生きて行く必要がある。また、男の「オタク脳」の深い専門性と女の「きずな脳」の共感性を賢く組み合わせれば、世の中を変えるようなイノベーションを生み出すことも可能という前向きな見方もある。

なお、これまで専ら男女の脳の違いにハイライトを当ててきたが、①脳は、男女間の性差より個人差の方が大きい、②脳は、その構造や機能には男女の違いはなく、様々な使い方を柔軟に受け入れる器官なので、訓練次第で男脳優位とされる能力を女性が身に付けることもできる、といった見解があることも、指摘しておきたい。

2. 男脳と女脳の違いを踏まえた賢い生き方

ここからは、1. 男女の脳の特徴や違いで学んだことの応用編として、違いを踏まえた賢い生き方を2つのケースについて考えてみたい。2つのケースは、当会の男性会員の多くが自らの体験として、過去に直面したか・現在直面中か・未来に直面しそうなもので、(A)「家庭における妻との関係」と(B)「職場における女性部下との関係」とした。

(A)家庭における妻との関係

1)黒川伊保子編著「妻のトリセツ」のお勧め

(A)は、迷うことなく、脳科学研究者・黒川伊保子著「妻のトリセツ」の紹介と要約とした。2年ほど前に、友人の勧めでこの本を読んだ時、正に「目から鱗」の思いがして、多くの方々にお勧めしたいと思ったからである。こんな本を結婚前に読むことができたならば、結婚生活が随分と楽になり、家庭の居心地も良かっただろうと心から残念に思った。本稿を読んで、多少なりとも心当りを感じた方は、是非とも、この本をお読み頂きたい。

2)この本は、最初に、近年「妻が怖い」という夫が急増しているが、殆どの夫はその「怒り」の本当の理由がわからないし、理由を聞き出しても、有効な解決策を打ち出せないと指摘する。そして、妻の怒りは過去の関連記憶の総決算であり、女脳は感情に伴う体験記憶を長期にわたって保存して取り出せるので、過去のものも含んだ増幅した怒りが溢れ出たものと解き明かす。こうした怒りは特に周産期と授乳期に強く現れ、夫一筋の妻ほど、一生、不機嫌や怒りの爆発を繰り返す続ける。これが「結婚の真実」だと言い切る。

怒りを減らすためには、脳科学に基づく戦略を立て、過去の怒りの記憶が数珠つなぎで引き出されるきっかけとなるネガティブトリガーを減らし、他方で、幸せな記憶を引き出すポジティブトリガーを増やすことが有効であるとして、両方のトリガーについて、女脳の特徴を勘案した効果的な対策を具体的に解説している。下記は、そのほんの一部を例示したものである。

3)辛い記憶「ネガティブトリガー」を作らない方法

- ・周産期や授乳期の妻への接し方に注意する：両時期の妻は満身創痕の状態にあり、夫の乱暴さや存在自体がネガティブトリガーとなるので、女友達として接するのがよい。
- ・女の会話の目的は共感：妻の話には「わかる、わかる！」と共感するだけよく、「こうしたら」といった注意やアドバイスをすべきではない。

- ・地雷を踏むセリフに気をつけよう：例えば、妻が家事・育児が大変な時期に愚痴った時に、「俺の方が大変だ」、「一日中家にいるからいいじゃん」などのセリフは絶対に禁句。
- ・女問題では妻をえこひいきすべし：母対妻、妻対娘といった女同士の対立が家内で起きた場合は、夫は必ず妻に味方すべきである。
- ・意識して「名もなき家事」を手伝おう：家事にはトイレに行くついでにコップを下げるといった目立たない家事が沢山ある。これらの家事もできる限り手伝おう、等々。

4)笑顔の妻が戻って来る「ポジティブトリガー」を作る方法

- ・事前に予告して旅行や外食の楽しみを長く味わえ：女脳はプロセスを楽しむので、予告から計画終了まで機嫌が良い。サプライズは女性を傷付けることもあるので、要注意。
- ・いくつになっても愛の言葉が欲しい女脳：妻の機嫌が良いタイミングで、「愛している」と言おう。欧米の男たちを見習って、エスコートをルールとして身に付けよう、等々。

5)それでも別れない方が良い理由

最後に、夫は、上記 2)や 3)などで機嫌をとっても、文句ばかり言う妻なら別れる方が良いと思うかもしれないが、別れると夫の健康余命が約 10 年短くなる。妻の文句は夫を病気や危険から守る言葉であり、夫自身のためにも、別れない方が良いと結んでいる。

(B)男性上司が女性部下に接する際の望ましい対応要領

私は現役を辞めて 10 年ほど経つので、(B)では、男性上司が、男女の脳の違いを踏まえて、女性部下と接する際の望ましい対応要領を記したネット情報を紹介することにした。

1)男性は誰が言ったかが大切で、女性は何をするかが大切：秩序重視の男性は上司からの仕事は受けるが、女性は何のためにするかを納得しないと仕事を受けない。

2)男性は結果重視、女性はプロセスを知ってほしい：仕事の報告を求めると、男性は結果のみ報告するが、女性はプロセスも重視する傾向があり、結果に至る努力や繋がりとか、どうやって進めたかやその間の苦労なども報告したがる。

3)男性は結果を自分の力と考え、女性は周りの力でできたと考える傾向が強い。

4)先述したとおり、男性は一つの事に集中するのが得意だが、女性は同時並行的に仕事ができる。また、何か相談されると、男性は解決したいと考え、女性は共感したいと思う。

5)上記した留意事項を踏まえつつ、女性部下に対して、次の対応を取るべきである。

①話を最後まで聞く、②説明をしっかりと行う、③約束は絶対に守る、④言動一致を貫く、⑤仕事が完了したら、「ありがとう」と声に出して言って、感謝を伝える。

6)女性部下特有の反応として、難しい仕事や上の役職を打診されると、「私には無理です」と言ってくることもある。そうした場合は、「やる気がないのか」と思ったり、言ったりせずに、「あなたなら、できるはずだ。信頼している or 期待している」と声に出して言って、信頼や期待を伝えるのが良い。

7)私自身も現役時代を思い出して一言だけ付け加えたい。女性部下それぞれが今の職場で働いている理由・事情・居心地とか将来のキャリアパス・人生設計についての考えな

どは、昔以上に多様化していると思われる。従って、女性部下を持った際は、できるだけ早めに個人面接等の機会を設けて、彼女たちの身上・不満・将来の希望等を把握し、個々人の事情を踏まえつつ、上記の対応要領を勘案して、彼女たちに接するのが良いだろう。

おわりに)

今回も、脳の活性化には難しいことへの挑戦が有益と考えて、「脳」をテーマに選んだ。この身勝手な想いもあって、長い寄稿になってしまい、誠に恐縮だが、最後までお読み頂いたことに感謝したい。拙稿が、多少なりとも、奥様の心の内の理解や家庭での居心地の改善、さらには女性部下との望ましい関係の構築にお役に立てば、望外の幸せである。

昨年秋に、若い友人から娘が結婚することになったという連絡があった。そこで、(心ときめき物質の)ドーパミンが脳から放出される幸せな新婚時代の暫く後に訪れる「結婚の真実」を知る時期に備えて、花婿は「妻のトリセツ」、花嫁は「夫のトリセツ」、そして二人で「夫婦のトリセツ」を読むように勧めておいた。そうしたら、最近、友人から「新婚夫妻のみならず、我々夫婦にも、とても役に立っています」との感謝の言葉が届けられた。最後に、この嬉しい感謝の言葉を紹介して、拙稿を閉じることとしたい。

(了)

【参考文献】①「男脳と女脳」茂木健一郎著、②「ベスト・パートナーになるために：男は火星から、女は金星からやってきた」ジョン・グレイ著、③「話を聞かない男、地図が読めない女」アラン&バーバラ・ピーズ、④「妻のトリセツ」「夫のトリセツ」「夫婦のトリセツ」黒川伊保子著、⑤「人生がときめく脳に効く言葉」中野信子、⑥「女性の部下を百パーセント活かす7つのルール」緒方奈美、⑦インターネット検索で入手した様々な文献や情報など。

岩槻日記(23)

当会特別顧問 石井 孝



「徒然日記」

割とチャンとした数学の入門書を読み始めた、半分ぐらいは丁寧にノートを取りながらフォローした。しかしながら、直感的に分かり切った事を馬鹿丁寧に証明する「くだり」にはうんざりして放り出してしまった。

では、次は何をやろう。エンタメ時代小説ばかりではバカが更にバカになってしまう。たまには文学とか言われるモノに挑んでみるか。

漱石の「こころ」、太宰の「人間失格」をたて続けによんでみた。

両者の筆づかいは全く異なるが、話は、人生の「破滅」である。何とも後味が悪い、口直しが必要だ、やっぱり「エンタメ時代小説」が、罪が無くてよい。

「徒然日記」 (乱読の極み)

とても重たくて、真っ暗な「こころ」や「人間失格」の世界にうんざりして、門田泰明のエンタメ時代小説を開いた。

こちらは、照明要らずの明るさであるが、何とも軽く手応え不足である。適当に明るく、ずっしりとした手応えのある小説が無いモノか。

高校生の時分、モームが流行り出し、その中の英文が大学受験にも出るという事もあって、文学青年を気取る仲間たちが「人間の絆」を盛んに読んでいた。

自分も読んでみたいなと思って居たが、ずーっと読まずじまいで来た。偶々「月と六ペンス」が入手できたので、早速、読んでみた。

評論家諸氏は、この作品を通俗小説などと言って居るようであるが、私にとっては、適度な明光とずっしりとした質量を感じる立派な文学作品に思えた。

老い先短い者に、人生（生きること）に対し改めて興味をそそらせる巧著ではないかと思ったからである。

「なの花漬け」

桜が咲き出すと、あちらこちらに、菜の花も黄色い花を咲かせ、上から下から春の訪れを告げる。

特に美味しいとは思わないが、「なの花漬け」の後味に残るほろ苦さが好きである。

どういうわけか分からないが、あのほろ苦さは、漸く暖房器具が要らない季節がやって来るかとホッとさせるのである。

昔この辺りは、畑や田んぼばかりで、ちょっと足を運ぶと、農道や田んぼのあぜ道で、なの花などは いくらでも容易に摘めた。

所が、最近畑も田んぼもすっかり無くなってしまい、16号の国道が通り、その周りは住宅やファミレスなどの密集市街地になってしまい、なの花などは、すっかり消えてしまった。

仕方がないので、行き付けの河川敷のゴルフ場の河岸で、なの花摘みをするのだが、河岸沿う満開の桜と鮮やかな黄金のなの花の競演は見事というほか無い。思わず見とれて花摘みを忘れてしまう。

「除草剤」

わが家の庭はそう広くもないが、この夏場になると雑草が蔓延って仕方がない。

折角、庭師さんに二日もかけて色々手入れをしてもらっても、一週間も立つと新芽が出始め放っておくと元の木阿弥である。

「雑草の如く強く」とはよく言ったものである。

これは何とかしなければと思い「除草剤」のお世話になる事にした。色々試みってみたが、此れは良く効く。

「寝押し」

ファッションと言うと女性専用かと思っていたが、男性にもあるようである。

最近、電車の中で見る男性サラリーマンの背広姿を拝見すると、ズボンがやけに細く、折り目に筋などは見えず、ストーンとした感じである。

我々が現役の頃のズボンは、幾分太めで、折り目には、ピンと張った筋目を付けるように心掛けたものである。

このため、夜寝る前に、「寝押し」などと言って、布団の下にズボンを丁寧にセットして綺麗な筋目出来るよう、翌日の出勤に備えたものである。

昼からベッドの生活に変わり、おまけに、近頃はコロナで自宅勤務流行りとなつては、「寝押し」などという言葉は、死語になってしまったであろう。

昭和は、至る所で遠くなってしまった。

「訃報」

「訃報」に接すると、お付き合いのあった往時を思い起こし、いろいろな思い出に浸り、衷心より冥福を祈ることが常であった。

ところが、このたびの訃報には何の情動も起こらなかった。ああそうか、といったところである。

彼は、権力者には徹底して媚び、自分に媚びない者に対してはいじめまくる。それでも結構偉くなった。

阿ー阿ー、俺はいくつになっても枯れきれないのか。

「ご教授ください」

最近、AI に関して喧しいが、小生は、残念ながら AI に関して全く無知蒙昧であるのでご教授賜りたい。

池波正太郎や宇江佐真理等々、人情の機微に精通した作家の小説などを学習データとして積極的に活用した AI を創り、義理人情味に溢れた「人生相談」チャット GPT のようなものがないものだろうか。

JICAの動き

JICA 海外協力隊 2023 年春募集

事務局

JICA 海外協力隊 2023 年春募集が開始されました。募集期間は 7 月 3 日(月)正午までです。募集案件は下記サイトのとおりであり、奮ってチャレンジしていただければ幸いです。

シニア案件：<https://www.jocv-info.jica.go.jp/sv/?m=BList>

一般案件：<https://www.jocv-info.jica.go.jp/jv/?m=BList>

また、JICA 主催の説明会が通年で全国各地及び Web で多数開催されていますので、参加されることをお勧めいたします。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/seminar/>

国際交流基金の動き

日本語パートナーズ派遣事業の募集

事務局

国際交流基金(JF)は、2023 年度の日本語パートナーズ派遣事業の募集を開始しました。日本語パートナーズは、アジアの中学・高校などの日本語教師や生徒のパートナーとして、授業のアシスタントや、日本文化の紹介を行うものです。専門的な知識は必要なく、応募要件に当てはまればどなたでも応募できます。アジアで多くを発見・吸収し、それを周囲へ、未来へ広げる…そんな人になってみませんか？募集一覧等は下記サイトのとおりであり、奮ってご応募いただければ幸いです。

<https://asiawa.jpf.go.jp/partners/apply/>

牡蠣師の世界観

日本ベンチャーネット社長 エッセイスト 田上 智



あるドキュメンタリーを見て衝撃を受けた。牡蠣の養殖を通して食物連鎖を学び、「山と海とは対峙するものではなく、限りなくつながっているものだ」というある種の世界観を身に着けた気仙沼の牡蠣師（士）の物語であった。「森は海の恋人」という書の著者・畠山重篤（はたけやましげあつ）氏の言葉である。

畠山さんは、県立気仙沼水産高校出身で、大学の文学部出でもなければ、特別に文章表現を学習したわけでもないが、実に文章が練れている。学者の川勝平太氏が、こう表現している。「その筆致には高い文学性があり、叙事文学ともいえる」。

まず、お金の使い方と次にキャッチフレーズの用い方に優れている。

木の葉が落ち、堆積して腐食が進むと、その分解過程でフルボ酸という物質が出来、これが鉄イオンと結びついたとき、フルボ酸鉄と言う物になる。この形になると、植物が直接摂取出来、沿岸の植物プランクトンや海藻の生育に重要な働きをするというのである。特に広葉樹林は、毎年大量の葉が落ち、腐葉土層が早く出来るので、海にとって非常に大切なのである。

このことは、北海道大学の教授に依頼して確認した事実だが、この調査費用こそは、重篤さんの母親が、新造漁船購入用にためていた「へそくり」であった。これがそもそも、キャンペーン発足の出発点であり、究極の目標でもあるのだ。母親の「へそくり」については、同様の例が、日本におけるエジプト考古学の先駆者吉村作治早稲田大学名誉教授にも当てはまる。教授が初めてエジプト発掘に赴いたとき、その経費一切を母親の「へそくり」で賄ったということを知っている。母親というものはいつの時代でも子供にとって偉大な存在だ。

キャッチフレーズについてはこうだ。大前提として、牡蠣の栄養分は植物プランクトンから吸収する。そして、海の世界連鎖の出発点は植物プランクトンなのである。したがって、植物プランクトンが無いと牡蠣は生育、成長できない。さすれば、植物プランクトンはどうやってできるのか？川の存在が決める手だ。河口に鉄分が無ければプランクトンは出来ない。例えば、牡蠣の大産地と言え、一つに宮城県の石巻湾だが、北上川の河口域と言うことである。そして広島は、日本最大の牡蠣の産地だが、ここには太田川という中国山地の水を集めた一級河川が注いでいる。牡蠣を好むフランス人だが、ロワール川の河口域の産地についても、やはり、広葉樹林が広がっているのである。

どうも、広葉樹がポイントだが、オーダー家具の会社・家具蔵によると、針葉樹と広葉樹の違いの説明は解りやすい。針葉樹の組織は単純で90%が仮道管で出来ている。仮道管とは水を根から葉に送る官のことだが、隙間だらけで軽く柔らかい。一方広葉樹は、組織が複雑で隙間が無く重量も重くしかも針葉樹に比較して硬いので家具には適している。

もともとは、森林率も世界有数の日本で、落葉樹が多かったが、植林を急ぐあまり、針葉樹の割合が比較的多くなったようだ。

広葉樹を山に植える運動を熱心に展開している畠山さんだが、背景には、大自然の原理原則をしっかりとわきまえているのだ。一人の牡蠣師ではあるが、しっかりした世界観を持った海の人でもありかつ山の人でもある。海というものがいかに山の恩恵を受けているか？海外でも、例えば、スペイン北西部のガリシアにも「森は海のおふくろ」という言葉を地元の漁師が良く使うそうだ。そもそも、「森は海の恋人」という言葉は、気仙沼市出身の歌人・熊谷龍子の「森は海を海は森を恋ながら悠久よりの愛紡ぎゆく」から来ている。

牡蠣は、日本人にとって、縄文時代からの重要な食糧源だが、牡蠣の養殖について、重篤さんは稼業として子息が継いでいるし、更には孫にも引き継ぐとしている。

(2021.10.4 完) 参考文献：森は海の恋人 畠山重篤 文春文庫

やどかり族の中国俳柳紀行序章(3)

(1996年8月3日～同25日)

元 JICA シニアボランティア
北垣 勝之

<事務局注>本稿はやや古いですが、かえって新鮮であり、切にご寄稿をお願いしたものです。

8月9日(金)

朝7時頃、昆明に着く。昨夜来大雨が降ったとみえて街中は至る所に水溜りがある。バスセンターから昆明飯店までは相当の距離があるので小型タクシーを拾ったが、乗ろうとしたところで啞然とした。客席の床が水溜りになっているではないか。別のタクシーを探すにもなかなか捕まりそうになく、意を決してこの車で行くことにした。途中、大通りの十字路は完全に水没、もと来た道路まで引き返し別の道を走る。すると突然、車の様子がおかしくなった。走り具合がガタガタしてきた。どうもパンクのようだ。道路右肩に車を止めて調べると、右後輪がやられている。運転手は早速、車輪の交換作業に取り掛かる。その間タクシーのメーターはどんどん上がっていく。たまりかねて別のタクシーを探すからもうよいと言っても、運チャンは取り合ってくれない。修理にどれくらい時間がかかるか尋ねると、すぐ終わると言う。その間に別のタクシーが来ないか見張りながら、一方では諦めながら運チャンの作業を急かす。10分位してようやく車輪交換作業が終わった。実に長い時間が過ぎたように感じる。やっとの思いで昆明飯店の見える所まで来た。ところがホテルの前は大きな池になっている。タクシーの運チャンは思い切ってこの池に突入した。ボンネットから白煙が濛々と噴き出す。何とか車は四つ星ホテルの玄関に横付けすることができた。タクシー代は16元、実害は軽微で済んだ。最後にあの水位もわからぬホテル前の池を横断する勇気を示したのは、ポンコツタクシー運チャンがパンクロスを少しでも挽回するためのサービス精神ではなかったのか。幸いにもホテルは朝8時前のチェックインが可能であった。二晩続けて削岩機の上で寝てきたので体調は良くない。早朝からホテルでゆっくり休めるのは大変有難いこと、久しぶりにシャワーを浴びて午前中じっくり睡眠をとる。

午後から外出、2日前に頼んだ印鑑を受取りに行きそのまま市内探索を行う。翠湖公園の中には入らず外周をかすめ円通寺に行く。唐代創建というから古い寺である。入口から少し入った所で、やはり2日前節竹寺に行ったとき出会ったオランダ・イギリス組み大学生男女ペアと再び遭遇する。彼等は同じ街に1週間逗留しのんびり名所旧跡や古刹を訪ね歩く。成都に1週間いて昆明に来たと言う。今夜出発で大理に向いさらに1週間滞在する由。丁度我々と逆のコースで時間をかけ中国旅行を楽しんでいる。円通寺内を見物していたら雨が降ってきた。しばし雨宿り、やがて雨も上がり再び街の探索を続けるがホテル近くになってまた激しい雨に遭う。濡れた服を着替え、近くのレストランで夕食をとる。その夜腹の具合が悪くなり4、5回トイレに駆け込む。いよいよ本格的に薬の世話になる必要がありそうだ。

8月10日(土)

午前中、石山森林公園の龍門に出かける。タクシーで雲南飯店へ、そこからバスで龍門入口へ行く。切り立つ岩の石段を登り始めるとまたしても雨が降ってきた。本来天気の良い日だと昆明湖を見下ろす雄大な眺めが可能のはずだが、今日は傘をさしての岩山登りとなった。龍門手前の道路わきの雑木林の中に抗日戦争記念碑があるのをバスで通り過ぎながら見かけた。こんな所にまで55年前の戦争の影響があったのかと一抹の感慨

がよぎる。

帰りは効率よく昆明市内に戻るべくミニバスに乗り込む。ところが龍門から少し下ったバス停で乗客の大半が降りたため、我々を含む残りの少数乗客は別のバスに乗り換えてくれと強制的に降ろされてしまった。料金一人4元のところ1元だけ返してくれた。それにしてもミニバスのご都合主義で他人の迷惑も省みず客を放り出すとは。しかし、すぐに2両連結の小西門バスターミナル行きの公共バス来たので、ぶつぶつ怒っている暇はなかった。ところがこのバスが大変な代物でかえって楽しくなる。座席の枠組みには板張りしてない所や、窓はきちんと閉まらずガラスのない所もある。床は木製で接続部分に隙間ができ路面が見える。走り出すと風がひゅうひゅう吹いてくる。タイヤは鉄製ではないかと思われるほど弾力性がない。女車掌が切符を売りに来た。行き先を告げ値段を尋ねると一人1元である。ミニバスの値段と妙につじつまが合っている。最初のうちは空いていた車内も次第に混んできた。おんぼろバスだが、いろんな乗客がいて結構楽しい庶民の乗り物である。

小西門バスターミナルから、もう少しましなバスに乗り換えて昆明飯店まで戻ってくる。荷物をまとめ空港までタクシーを飛ばす。X09406 便昆明 15:35 発、成都 16:50 着。片側3席、一列6席の烏魯木齊(ウルムチ)行き新疆ウイグル航空の中型機である。機中で知り合った中国人青年の案内で空港から成都市内へ向う。彼は四川省成都の出身であるが、上海の大学を卒業、現在は米系外資会社に勤める23歳のサラリーマン、姉は今アメリカに行っていると言う。家族をはじめ、親戚のいる成都と仕事場のある上海を行ったり来たりしている。岷山飯店前で空港連絡バスを降りタクシーに乗り換える。この方が経済的で理にかなっていると言い、私が宿泊する銀河王朝飯店(YINHE DYNASTY HOTEL)まで送ってくれた。応分の車代を彼に渡そうとしたが本人は一切受け取らず、名前も聞かないままに別れてしまった。中国にも気骨のある青年がいるものだと感心する。

夜遅くなって本場四川料理の麻婆豆腐を食すべく外出、かなり探し歩いて解放路二段にある陳麻婆豆腐店を訪れる。本場の味は酷のある美味ではあったが、淡泊好みの私たちには少々油っぽい感じがした。わざわざ薄暗い悪路の夜道を歩いて出かけるほどのレストランではなかった。中国の都市はどこもインフラが未整備で、特に電力事情が遅れていて節電のため照明は暗めである。(次号に続く)

メッセージリレー(1)

平素より ICT 海外ボランティア会(ICTOV)に多大なるご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。当会ではこのたび、当会会報配信先の皆様から、「私の海外とのかかわりなど」につきまして、当会会報にリレー形式(五十音順)でメッセージをお寄せいただくことを企画いたしました。順番に別途ご依頼いたしますので、ご多忙のこととは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

お寄せいただきたいメッセージの内容は次のとおりです(全部又は一部選択可、文字数自由、図・写真添付可)。

- ①今までの海外活動のご経験など
- ②最近取り組んでいることなど(仕事、趣味、旅行、健康など)
- ③最近笑ったこと、うれしかったこと、感動したことなど
- ④ICT 海外ボランティア会(ICTOV)へのご意見など
- ⑤その他(皆様への呼びかけ、メッセージなど)
- ⑥お名前(必須)

今回は初回であるため、当会幹事のメッセージリレーを掲載いたします。なお、過去の事例は当会ホームページに掲載することにいたします。

<https://ictov.jimdo.com/会報/>

安達 信男

① 1985年から5年程、AT&T社の固定長パケット交換機とD o VモデルをOEM製品にして販売したのが海外との接点でした。その後、国際調達室でノーザンやAT&Tの局用交換機の調達を担当、NTT-WT発足にも参加して米国EC第二位のスターリングコマース社とJVを立ち上げました。その後は、NTT-PCとミライトで海外機器の輸入販売を展開しました。現在は、自分の会社で、英国製品S o p h o sを販売したり、技術英語を企業様へ講義しております。

② ITコーディネータ協会のケース研修講師をしております。この中でITで経営革新するガイドラインを企業の中堅の方々に話しております。NTTはITCの設立メンバーでしたが、影が薄くなっており、NRI、NEC、キャノン、みずほ銀行など、ビジネス変革を推進するSIナー企業の参加が増えてきております。NTTに戻ってきて欲しい。趣味は多く、テニス、ボーリング、水泳、ゴルフ、英会話(Toastmasters)です。

③米国のベテラン選手がショーマン的なテニスダブルスのY o u T u b eを発見しました。65歳位の超ベテラン選手のユーモアと神業に笑い転げました。私もああなりたいの憧れを抱きました。テニス好きの方は一見の価値があります。ほんとに笑えます。

④100歳まで生きようぜ! この実現には会話が大事です。座談会を継続願います。

⑤健康で長生きには、刺激を得て、または与えて、友人や新しい方々と会話することがとても大事だと思います。懇談会を共に盛り上げてまいりましょう。よろしく願いいたします。

①30年以上昔になりますが、懐かしい海外の思い出の一つにインドネシアでの温泉体験があります。1990年9月にアジア・太平洋電気通信共同体(Asia-Pacific Telecommunity)研究委員会(Study Groups Meeting)が、インドネシア、バンドンで開催されました(APT:バンコクに事務局のある地域機関、1979年設立、現在38カ国が加盟)。この会議は9月4日から12日の9日間の日程で開催され、私は事務局員として参加しました。アジア・太平洋各国からの出席者は、域内の電気通信サービス、情報基盤の発展促進のため、白熱した議論を侃々諤々と進めていました。バンドンは、第1回アジア・アフリカ会議開催の地で有名ですが、郊外は火山、田園など自然に恵まれた風光明媚なエリアです。ホスト国は週末にツアーを計画し、景観スポットの山、滝を案内し、ツアー参加者は自然を十分に満喫しました。ツアーの仕上げはチアトルにある温泉でした。温泉プールでの湯治ですが、温まりながらの楽しい歓談の場となりました。私も会議で話せなかった人達と和気藹々に話すことができ交流を深めました。前日までの会議とは異った和やかな雰囲気生まれ、翌週からの議論は更に活発にかつ円滑となり、ホスト国の粋な計らひだったと思います。昨今、世界情勢はギスギスとした感がありますが、温泉に浸かってのんびりと、このような和の機会はないものかと思つづく思います。事務局の秘書達が、SG活動でAPTと付き合いの長いインドの博士が笑う姿を、初めて温泉プールで見たと話題になったことは懐かしい思い出です。

②イギリスを代表するリンゴを栽培しています。

りんごは世界で1万5千種以上栽培されているらしい。原産地はアジア西部と言われている。旧約聖書でアダムとイヴが禁断の果実であるりんごを食べた話は有名ですが、それだけ古くて、約4千年以上前から栽培されていたと言われている。

日本には中国から伝わったとされており、平安時代の記録にりんごの記述があるとのこと。しかし、現在日本で栽培され、食されているりんごは明治初期に主にアメリカから持ち込まれたものがルーツになっているようで、「西洋りんご」と呼ばれています(「紅玉」はアメリカから来た代表的なりんごです)。それまでのりんごは「和りんご」として区別されています。

現在の日本には約2千種のりんごがあるとのこと。

私のふるさとである長野市の北隣の高原の町「[飯綱町](#)」は長野県を代表するりんごの産地ですが、「和りんご」として「高坂」を栽培しています。飯綱町には、りんごパークセンターがあり、ミュージアムとその隣の畑には世界の代表的なりんごが栽培されています。かの有名な「ニュートン」がりんごの落ちるのを見て、万有引力を発見した、いわゆる「ニュートンのりんご」(正式名: Flower of Kent)もあります。

ニュートンのりんごの実実は「熟しても青く、部分的に朱色がかった縞模様がある」、との解説があります。一般にりんごは熟しても落下しないのですが、この解説によると、このりんごは「熟すと直ちに落下する」とあり、ニュートンはそれで万有引力を発見したのでしょう。ニュートンが他の落下しない普通のりんごを見ていたら、万有引力を発見出来なかったかも知れません。

(3倍以上に拡大すると下の写真の解説の文が読めます)



いづなアップルミュージアム



ニュートンのりんごの木
正式名：Flower of Kent



ニュートンのりんごの解説

ところで、私は2・3週間に一回、東京から飯綱町に通って、リンゴと野菜の栽培をしています。すなわち新幹線農業をしています。

栽培するリンゴの中にはイギリスを代表するりんごがあります。そのりんごは日本では「ブルムリー」と呼んでおり、英国でクッキングアップルの王様として、今でも不動の地位を占めています。1883年英国王立園芸協会から最高賞を受賞しております。英国生産のりんごのうち約45%がブルムリーとのこと。正式名は「ブルムリーズ・シードリング (Bramley's Seedling)」と言います。

一般的に料理用りんごは日本では馴染みがありませんが、ブルムリーは色々な食材と合わせることで、デザートや料理用として今注目のりんごです。加工に適した爽やかな酸味を持ち、熱を加えると、すぐ煮溶けるのが特徴です。



ブルムリーりんごの解説



収穫前のブルムリーりんご



ブルムリーりんご

主な用途としては肉料理に合い、そしてパイ、クランブル、焼きりんご、ソース、ジャムなどバラエティーに富んだ料理に使えます。

～ブルムリーりんごの特徴は～

- ・色は青い
- ・酸味が強い(砂糖を加えると解消できる)
- ・肉との相性がよい
- ・熱を加えるだけですぐ煮とける
- ・組み合わせると他の食材の引き立て役になる
- ・平たい大きい形状 (大きいもので 300g/個がある)
- ・ヘタが短い
- ・身が白い

このブルムリーりんごは私が約7年前の4月初めに接ぎ木用の枝をJAから受け取り、自分で接ぎ木をして栽培しています。

日本の各家で柿の木を植えています、イギリスではそれに近い感覚でブルムリーを栽培しているようで、一般の家庭の庭などに植えているとのこと。日本のりんご農

家のように、丁寧な消毒、摘果などの手入れは不要で、病気や害虫に強く、栽培しやすいりんごです。

写真にあるように、緑色のりんごで、食べると非常に酸っぱく、紅玉のりんごを濃くした味です。

私は8月下旬に、飯綱町にあるワイナリー「[サンクゼールワイナリー](#)」に出荷しております。サンクゼールワイナリーでは、シードルワインにしています。

このブルームリーは、まだ、日本で栽培が始まって間がないので、りんごもシードルワインも市場にはあまり出回っていませんが、サンクゼールワイナリーでは手に入ります。ただし、ネットで購入することは出来るようになりました。関心のある方は是非購入して味わって見て下さい。

いつも、8月のお盆には避暑をかねて私の家族全員で飯綱町に行きますが、取り立てのブルームリーりんごをジャムにしてパンに塗って食べています。もし手に入ったら以下のレシピのようにジャム作りを試して見て下さい（NHKで飯綱町のリンゴの紹介をした時に私が書き取ったレシピを基にしています）。

（りんご1個に対して）

- ・皮をむき
- ・種を取る
- ・乱切りにして
- ・砂糖大さじ3を加える（好みによります）
- ・電子レンジ（強）で5分間温める

熱が加わると蒸気が出てきて吹き出すので、重いふたをかぶせるか、ラップをかける場合は空気抜けができるように少し開けてください。私は図のようなガラスのキャセロールを使用しています。

- ・実が崩れてジャムになる

他のりんごは電子レンジで熱を加えても、実が崩れないのでこのようなジャムになりません。

（その他参考に、関係する写真を以下に載せました。）



[サンクゼールワイナリー](#)
（直売もあります）



「まるでヨーロッパの田舎町」と日経新聞で紹介された飯綱町のサンクゼールの丘からの眺め。手前に私の2人の孫と遠くに志賀高原が見えます



ブルームリーの
シードルワイン

佐竹 康雄

①私が海外で長期滞在したのはグアテマラとスリランカの2か国です。

海外の長期生活ではストレスも多いので週末はスポーツや趣味を楽しみ仕事を忘れるようにしていました。スキューバダイビングやテニスも楽しいですが、一番の楽しみは子供のころから続けているアマチュア無線(以下、ハム)を海外で楽しむことです。

長期間の渡航が決まると現地のハムのライセンスを取得するよう日本国内で現地の

情報を仕入れてきます。しかし、外国人に対してライセンスを与えることが明確になっていなかったり、軍部の許可や現地の人の推薦が必要だったり、手続きはなかなか進みません。そこで現地のハムクラブとコンタクトをとり情報を得るようにしています。現地の人達に接してみると、みなさん親切で、手続きを手伝ってくれます。

ライセンス取得後は現地の無線クラブに加入してメンバと各種イベントに参加しました。無線仲間と無線の交信を楽しんだり、クラブの月例ミーティング、食事会、家族を含めたレクリエーション等のいろいろなイベントに参加しました。仕事とは全く関係ないが共通の趣味を持つ現地の人たちとの交流し、楽しい時間を過ごしてきました。

現地のハム仲間と交流することで、色々な情報が得られます。現地の習慣・風習が理解できることや、クーデターが勃発したときには日本人会の連絡網より早く情報が入ってきました。

インターネットのおかげで、今でも時々情報交換したり、たまには遊びに行ったりして楽しんでいます。

松田 成就

①1983年、JICAの海外技術協力専門家として、タイに行くことになりました。

タイに行くとなつて、まず頭に浮かんだのは、同じ大学の研究室にいたタイの留学生で、帰国してタイの大学で先生をされていた人でした。赴任前に連絡を取り、先生が家族ともどもバンコクの空港まで出迎えにきて下さるなど、いろいろお世話になりました。同氏はその後、タイ政府の通信関係の要職に着かれました。

タイにはNTTの先人たちが、大学設立まで多大な貢献をされたモンクット王工科大学がありましたが、私の勤務するタイ電話公社には同大学の卒業生が多数いて、彼らから親しみをもって迎えられ、人づくりは時間がかかるがとても大きな財産になることを教えてくれました。

帰国後、アメリカ、ドイツの通信会社の日本法人に出向する機会を得、それぞれの国民性、企業文化の違いを肌で感じました。

アメリカの通信会社出向中に、シカゴ郊外にある研修センターで2週間、ただ一人の外国人社員として研修を受けました。当時はまだ通信キャリアを選択すると言う概念が私には少なく、またCCITTの標準化に尽力していたNTTの一員からみると、多くのことがデファクトスタンダードで進められるなど、アメリカの常識が十分には理解できておらず、朝から夕まで早い英語の洗礼を受けて過ごす2週間がとても長く感じられました。

ドイツの通信会社出向中には、1990年の東西ドイツ統合後、ベルリンへの首都移転に伴うベルリン首都圏での通信網整備・運営体制などが喫緊の課題で、同社の複数幹部が訪日し、NTTと意見交換の場を持つことになり、私も一員として加わりました。

東西ドイツ統合及びベルリンへの首都機能移転という歴史の転換点直後に、ドイツ企業に身を置きましたが、こうした場で真摯な議論がなされたことが印象に残っています。

ドイツの通信会社出向中に得た人脈は、その後、関西で広帯域通信網を使ったアプリケーション実験実施時に大きな助けとなりました。

私の海外との関わりは、時代背景もあり、多くは社会的ミッションとしてのものではありますが、それだけに、それぞれの時代背景を反映したものであり、それぞれがとても印象深いもので、私の財産になっています。

②NTTで在宅勤務、遠隔医療、遠隔教育などに関わりましたが、「できない理由を探す」時代が長く続きました。しかし、終わりの見えないコロナ禍が契機となって、オンラインの自己研鑽の機会が増えたことは喜ばしい限りです。

リタイアして自由に使える時間があり、それまでは開催地でしか受講機会のなかったイベント・セミナーが、しばらくはオンラインのみの参加となり、その後は会場での開催に加えてオンラインでも参加できるようになり、積極的に参加しています。

参加するオンラインイベントの開催テーマは、情報通信分野はもとより、国際問題、経済分野など多岐にわたっています。

無料もしくは低廉な参加費用で交通費もいらず、気軽に参加でき、世の中の動きにキャッチアップできるのはとても素晴らしいことです。NIKKEI LIVE は、日経新聞購読者であれば費用負担なしで気軽に参加でき、その分野の専門家などがわかりやすく解説してくれるので、関心あるテーマを選んで参加しています。

普段の趣味は写真・動画撮影、海外旅行のプランニングなどで、海外旅行はこうした趣味がフルに生かせる場で、準備期間、旅行時、帰国後に楽しむことができます。特に海外旅行するとなると、海外ビジネスにかかわる人やバックパッカーのような人以外は、パッケージツアーを選択するか、旅行業者に任せてカスタマイズした旅行を楽しむしかありませんでしたが、高速インターネットが世界中に普及した今日では、旅行にかかわる情報収集から始まり、航空券、ホテル、観光施設入場券、レストランなどの予約・決済が自宅で済ませることができ、ネット社会の利便性を享受しています。

③日本ではコロナ禍が明け切らない昨年 9 月に、ヨーロッパ(フィレンツェ、パリ)を旅行し、いくつかのトラブルに直面しました。それまでの海外旅行にあったこともあります。が、コロナ禍のこの時期にしかなかった経験もあり、貴重な思い出になっています。

④⑤最近の国際情勢が日々の生活に直結することを、誰もが痛感したことと思いますが、海外とかかわることは決して特殊なことではなく、日々の延長線上にあることを認識して、普段からそのための取り組みができるよう心掛けていたいと思います。

山川 博久

①タイやフィリピンに約 10 年間海外勤務する機会に恵まれ、その間の現地の人たちの支援への恩送りというほどではないが、現在、在日外国人中小企業や留学生を支援しています。

②データに基づく中小企業経営への支援ができるよう、政府統計やエクセルのデータ分析ツールの活用促進等を進めています。

③ウクライナのゼレンスキー大統領が G7 広島サミットに来日・参加したことに感動しました。

④継続は力なり、です。

⑤皆様の当会へのご支援・ご協力に感謝いたしますとともに、今後ともよろしく願いいたします。

山崎 義行

①昭和 62 年に当時の電電公社在職中に青年海外協力隊に参加して南太平洋のサモア（当時は西サモア）に 2 年間の活動をし田舎者の私の人生は大きく変わりました。その後帰国して職場に復帰したものの海外への気持ちはなかなか強く NTT のインドプロジェクトに応募。

当時の NTT インターナショナルに出向しました。インドプロジェクトは残念ながら没になりましたが東京を拠点に途上国の ODA コンサルと言う仕事に関り、カンボジアなどアジアやアフリカで ODA 調査の仕事をしていただきました。

NTT退職後はJICAのシニアボランティアに参加ヨルダンで2年間活動しました。帰国後は東京の派遣会社より台湾新幹線の通信部門の工事。パキスタンの携帯電話のプロジェクトなどに関り、10数年前に故郷の大分に帰っております。本当に良い経験をさせていただきました。

②高校生のころ始めたアマチュア無線が趣味で自宅に大きなアンテナを建てて自宅から世界中の方々と電波による交流をしています。現在は日本アマチュア無線連盟の大分県支部の支部長をさせていただいております。

8年前前立腺がんを発症しいきなりステージ4と言われながらまだ生きております。ありがたいことです。

③つきなみですが2か月ほど前に初孫ができました男の子です。毎日息子が動画を送ってくれますがこれが可愛い。既にジジバカ状態です。

④先輩方のお声がけでICTOVが発足しましたが本当に意義のあることだと思います。自分自身、身体の事もありなかなか力になれてませんがいつまでも続けて欲しいと思っています。

⑤みなさまそれなりの年齢を積まれていると思います。健康に気を付けていつまでもお元気でおられてください。

第 18 回 ICT 海外情報ウェブサロン模様

事務局

第 18 回 ICT 海外情報ウェブサロンが 2023 年 5 月 27 日(土)19 時～21 時、ウェブ会議室において開催された。講師は、齋藤 邦夫様(元 JICA シニア海外ボランティア、元 NEC)、演題は「人生 100 年時代に想うこと」であった。講師は NEC ご退職後、JICA シニア海外ボランティアとしてインドネシア、マーシャル、ブータンの 3 回ご経験されており、ご自身のこれまでの人生経験から、他の人とは違った(であろう)経験を主体にお話があった。また、ご参加の皆様からもいろいろなご経験談などをご紹介いただき、真にウェブサロンの雰囲気であった。主な話題を以下に示す。

- ・私の人生 100 年時代の区分をご紹介する。また、本多静六博士の人生計画についても考えさせられることが多い。

私の人生の区分

- 天国/地獄?**
 - 恍惚期? ・未知の世界 3歳児と同じ?
 - ・心身まだ なんとか 使えない機能?も拡大
- 不良中年期**
 - ・JICAお墨付き
 - ～心身健康!～
 - ・ご苦労さんテス時代
 - 無茶苦茶働いた時代
- 会社人間期**
 - 先に逝った先輩や友にも 感謝! 合掌
- 青年期 幼少期**
 - ・物がなかった時代
 - 親にひたすら感謝

本多静六博士の新人生計画一覧表

期名	年令	期間年数	計画目標	計画方法
第1. 教養期 少年期(教養) 青年期(達成)	6-20 6-15 16-20	15 10 5	人間らしく働くための準備	勉学、健康の確保化、見学生活の記録 (読書・学習・達成)
第2. 勤労期 小社期(働き盛り) 中社期(分利盛り) 大社期(知財盛り)	21-65 21-35 36-50 51-65	45 15 15 15	身のため期のために働き、名利を蓄積する	勤労貯蓄、職業の適変化、成功(職域専任・継続活動)
第3. 奉仕期 初老期(お礼奉公時代、感謝時代)	66-85	20	名利に超越して、世のため人のため働く	名譽職、世嗣役、官公吏、人生指導等 (奉仕的、円満無碍の活動)
第4. 老老期 中老期(備前時代) 大老期(無為化時代)	86-126以上 86-105 106-126以上	35以上 20 15以上	哲学修養、努力道徳の晩年を成しむ	精読精読、顧問相談役、身の上相談、遊覧指導旅行等 (都随随、先賢月片)

- ・小学生の時に鉱石ラジオを自作し、大学生時代にアマチュア無線資格を取得して開局、現在に至るまで多数の思い出がある。

アマチュア無線に関するエピソード

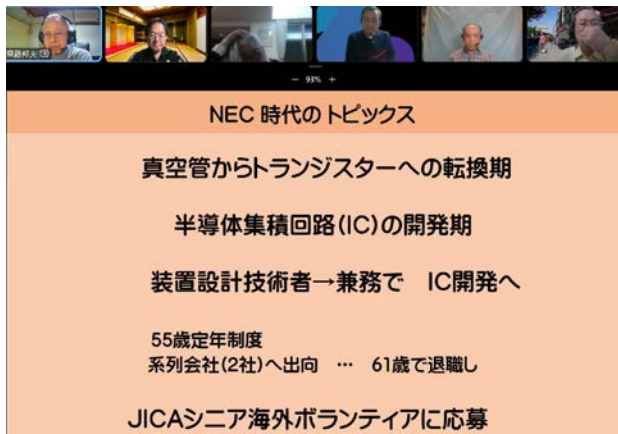
- ・世界共通の趣味 ・どこの国へ行っても友人がいる
- ・世代を超えて付き合える
 - ・学生時代には、OM(Old Men)さんの家へ
 - ・歳とった今は若い人達が仲間に入れてくれる
- ・アパマン族の仲間と海外遠征へ DX-pedition 海外(運用)遠征
 - ・海外での免許(コールサイン)取得 機材・ANTを持って
 - ・太平洋島嶼国全14ヶ国…必然的に旧日本軍戦跡を訪ねる旅
 - ガダルカナル、チューク(トラック)、ラバウル、マーシャルetc.

オマーン(マスカット)のアマチュア無線協会訪問

中東・オマーンのアマチュア無線協会の訪問記

2023年1月15日～21日まで、モザンビークの首都マプトウゴで開催された第14回 JASVE 国際会議に、東京の帰郷として参加しました。私は久しぶりで、おなじみの仲間とあそびました。おなじみの仲間とあそびました。おなじみの仲間とあそびました。

- ・NEC 時代は真空管からトランジスターへの転換期にあたり、半導体集積回路(IC)の開発に心が踊る時を過ごした。



・ JICA シニア海外ボランティアとして、インドネシア、マーシャル諸島、ブータンに派遣された。古い通信形態を見たり、改善の提案をするなど、様々な思い出がある。



・ 白内障(両眼)、慢性硬膜下血腫、僧帽弁閉鎖不全、一時的脳虚血発作、急性前立腺炎、虫垂炎、十二指腸潰瘍(2回)を経験した。
 ・ 最近、「人類の起源」(篠田謙一著)を読み、これから「哲学と宗教 全史」(出口治明著)と「超圧縮 地球生物全史」(ヘンリー・ジー著、竹内薫訳)を勉強する予定である。今から始めて、いつ終わるか、終わらないか、分からないが、人生 100 年時代である。
 ・ これから、時間と空間の、どこへ行くのか・・・、楽しみです。

プレゼン終了後、多数の質問・意見等が提起された。それらについて、以下のとおり項目列挙する。

- ・ アマチュア無線愛好家の行動様式
- ・ アマチュア無線のすすめと今後の普及
- ・ 超遅延エコー
- ・ 半導体の開発
- ・ JICA 海外協力隊の動向
- ・ ブータンの仏教や文化
- ・ 太平洋島嶼国と住みたい国
- ・ のろし等による通信
- ・ イランにおけるのろしの跡
- ・ 日本語教育と漫画
- ・ インドネシアの首都移転計画

- ・パプアニューギニアなどでの米中活動
- ・小樽のニシンと青山御殿
- ・華僑の働き方、など

終了予定は 20 時 30 分であったが、21 時 15 分まで絶え間ない話題交換があり、真にウェブサロンの雰囲気であった。

編集後記(編集者から一言)

皆様のご協力をいただき、おかげさまで会報第 108 号を発行することができました。今回は当会の宮村特別顧問から「男脳と女脳、その違いを踏まえた賢い生き方」の特別寄稿をいただくとともに、岩槻日記、海外グラフィティ、俳柳紀行のご寄稿継続をいただき、誠にありがとうございます。

また、今回から当会会報配信先の皆様によるメッセージリレーを開始いたしました。「私の海外とのかかわりなど」につきまして、当会会報にリレー形式(五十音順)でメッセージをお寄せいただくものです。順番に別途ご依頼いたしますので、ご多忙のこととは存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

これまでのご協力を改めて心より感謝するとともに、当会及び当会報へのご感想、ご意見などございましたら、下記サイトにご記入いただければ幸いです。皆様からのさらなる会報へのご寄稿と ICT 海外情報ウェブサロンへのご参加をお願いするとともに、今後とも当会へのご指導・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

<https://ictov.jimdo.com/コメント/>

発行： ICT 海外ボランティア会(ICTOV)
会報担当： 空席のため募集中(編集長兼広報部長)、山川 博久(事務局長)
ホームページ担当： 山崎 義行(報道部長)、安達 信男(幹事)